（３）家出の指導に生かす

家出の原因・動機をみてみると，家庭や学校等のトラブルから逃れようとする逃避型が目立つ。家庭では，多くの場合，愛情や温もりを感じていなかったり，逆にひどく干渉されているなど居場所を感じなくなっていることが多い。また，学校においても，学習のつまづきや人間関係のひずみなどに起因するケースが多く見られる。

家出の問題については次のような指導を行う。学校においては，学習のつまずきをなくし，望ましい友人関係や教職員との温かい人間関係を築けるように教育活動を工夫する。また，金銭の管理，所持品や服装などに十分気を配ることや安易に外泊をしたり，友人を泊めたりしないよう家庭に協力を求める。家出した児童生徒への対応は温かい態度で接し，本人の気持ちを整理させながら家出をしたくなった気持ちを十分聞き取り，その上で，学校や家庭における指導計画を作成し，家庭と協力しながら指導を行う。

しかし，非行や事件に巻き込まれないようにするだけの表面的な指導に終わることも多く，時間がたてば不安や悩みが増したり，保護者の理解が十分でない場合，真に子どもを支援する行動に結びつかないまま，また家出を繰り返してしまう場合もある。

そこで，道徳の時間では，家族愛や友情，自己有用感，自己肯定感，自己存在感などについてじっくり考え・感じさせるような学習場面を工夫し，人間関係の修復と自分の居場所づくりのきっかけを作りたい。そして，自分を傷つけ家出という方法で自己表現するのではなく，自分に自信を持ち，一時的な欲求を一旦先送りし，自分にとってより充実した選択ができる耐性を身に付けられるように，児童生徒にアプローチしたい。また，参観日に道徳の時間を設定し，家出する児童生徒の気持ちなどを題材として取りあげたり，保護者の意見も聞きながら親子でともに考えさせるなど保護者参加型の道徳の授業を実施することも効果的である。このように工夫された授業は家庭においても会話の材料となるなど，児童生徒が周りの友人や大人たちの温かい支援を実感できることにつながり，効果的な取り組みになる。

家出少年の学職別状教（平成14年）　　**（警察庁調べ）**

区分＼学職別	総数（人）	学生・生徒					
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他	計
総数	23,815	1,554	9,646	6,208	271	588	18,267
うち女子	13,636	463	5,727	4,101	174	273	10,738
総数に占める女子の割合（%）	57.3	29.8	59.4	66.1	64.2	46.4	58.8

参考　「生徒指導のてびき」P５４より

【Ｑ２】　家出についての指導は，どうすればよいですか。

【A】

次のような指導を行います。

①　学校においては，学習のつまずきをなくし，望ましい友人関係や教職員との人間関係をつくれるよう教育内容を工夫します。

②　家庭において，金銭の管理，所持品や服装などに十分気を配るよう保護者に協力を求めます。

③　安易に外泊をしたり，友人を泊めたりしないよう家庭に協力を求めます。

④　家出をした児童生徒は，犯罪の被害者や加害者になる心配があるため，保護者と連携し，保護願いを出し，早期発見に努めます。

⑤　家出した児童生徒への事後の対応は，温かい態度で接し，家出をしたくなった気持ちを十分聞き取り，本人の気持ちを整理させます。

⑥　家出の原因・動機については，時間をかけて多面的に把握し，学校や家庭における指導計画を作成し，家庭と協力しながら指導を行うよう努めます。